



環境教育学会 関西支部通信

第8号

### 関西 ECOMAIL

環境教育学会関西支部から関西の会員の皆様に、ワークショップのお知らせと関西の環境教育に関わる情報交換をしていただくために発行しています。

また学会員外の方々が環境教育に関心を持っておられる方や実践をされている方とのコミュニケーションも広く図りたいと思います。

1000円の通信費(1年分)をいただきましたら、ワークショップの案内葉書と ECOMAILを送らせていただきます。

(通信費振込先…郵便局「大阪 9-37886」環境教育学会関西支部)

## 第13・14回 関西ワークショップのお知らせ

会場：大阪教育大学(天王寺)第12教室(1階)

(JR環状線寺田町駅下車 西へ徒歩3分、または天王寺駅下車 北東へ徒歩7分)

連絡先：大阪教育大学環境科学教育研究室 鈴木善次 (☎ 06-771-8131 内線 417)

第13回 10月19日(土) 2:30 pm ~ 5:00 pm

1. 話題提供 日下和信さん

「ゴミを考える—VTR『ゴミ問題入門』の紹介を兼ねて」

2. 環境教育ビデオ教材の視聴

第14回 12月7日(土) 2:30 pm ~ 5:00 pm

話題提供 山田弘司さん 「宗教観と環境倫理」

環境ワークショップの話題提供者(報告をお願いできる方)を募集しております。また、どのようなテーマでのワークショップ開催が望ましいか、あるいは講演以外にどのような形式のワークショップ開催が望ましいかなど、関西ワークショップに対するご希望なども、関西支部事務局までお寄せ下さい。(連絡先は最終頁に掲載)

# 関西支部新世話人会発足

去る9月21日、新旧合同の世話人会が開かれ、新しい世話人会が正式に発足しました。新世話人会の構成は次のとおりです。

赤尾整志 (GECグローバル環境文化研究所) 井上有一 (奈良産業大学)  
植田善太郎 (泉大津市立条東小学校) 岡靖敏 (GECグローバル環境文化研究所)  
木内功 (大阪青少年活動振興協会) 北村直也 (寝屋川市立神田小学校)  
菅井啓之 (大阪教育大学附属池田小学校) 鈴木善次 (大阪教育大学)  
高田研 (豊中市立第八中学校) 谷口文章 (甲南大学)  
戸田耿介 (兵庫県教育委員会自然系博物館準備室/兵庫自然教室)  
原田智代 (関西支部事務局担当) 福島古 (東大阪市立花園中学校/GEC)  
藤岡達也 (兵庫教育大学大学院/大阪府立勝山高等学校)  
本庄眞 (奈良県、東榛原小学校) 榎村久子 (奈良文化女子短期大学)  
松林昭 (京都府、光華小学校) 山田弘司 (日本非鉄金属商工連合会)  
山本幹彦 (京都ユース・ホステル協会) 以上19名 (50音順)

また、次のことが決定されました。

1. 世話人代表 赤尾整志 (GECグローバル環境文化研究所)
2. 事務局 大阪教育大学環境科学教育研究室 (鈴木善次研究室)
3. ワークショップ会場 大阪教育大学 ほか  
(大阪教育大学は1993年に移転するが、その後も可能な限り当大学で開く。)
4. ワークショップの内容 講演のみでなく、野外活動なども行なう。
5. 支部大会 年1回程度 (秋)、開催する。  
本年度については、年明けに開催の予定。 以上。

## 研究紀要の紹介



(財)京都ユースホステル協会野外活動事業委員会から紀要が届きました。

表題および執筆者は次の通りです。

—— vol.2 (1991.9.) ——

テーマ「子どもの現状と野外活動に期待するもの」

現代の子ども達に必要なもの ..... 佐藤昭夫

学校現場から見た子どもの実態と野外活動に期待するもの ..... 嘉納隆英

子どもの現状と野外活動に期待するもの ..... 酒井 弘

テーマ外

キャンプファイヤー考 ..... 岡本俊則

キャンプファイヤーについて

(キャンプファイヤーを成功させる「裏方の力」をつける) ..... 佐藤昭夫

「北山ネイチャービレッジ」

子どもたちとの環境教育キャンプ報告書 ..... 水野篤夫

## 資料 関西支部の活動（1989年12月～1991年9月）

### ワークショップの開催（話題提供者およびテーマ）

1989年

- 第1回（12/2） 金森正臣（愛知教育大学）、 大高・遠藤（高知大学）、  
井上有一（奈良産業大学）

1990年

- 第2回（4/28） 米田 健（大阪教育大学）「環境教育から見たタイの森林」

※日本環境教育学会発足（5月）

- 第3回（6/30） 鈴木善次（大阪教育大学）「最近の環境教育の動向」

小野喜一郎（京都）「リトル・フィールド活動」

※日本環境教育学会関西支部発足

- 第4回（9/8） 菅井啓之（大教大附属池田小学校）「身近な自然をどう生かすか」

- 第5回（10/13） 恒石明男（吹田市環境部公害対策課）

小川雅由（西宮市生活経済局保健環境部環境保全課）

「行政の小学生を対象とした環境学習の実践」

- 第6回（11/24） 日本科学教育学会環境教育部会との共催

研究発表 6 / パネルディスカッション

- 第7回（12/15） 岩井順一郎（豊中市立中央公民館）「社会教育としての環境学習の  
とりくみ：『豊中自然のふしぎ体験キャンプ』を通して」

1991年

- 第8回（2/23） 有馬忠雄（府立香里ヶ丘高校）「ガキ大将たちの自然観察」

- 第9回（3/30） 藤永延代（市民生協専務理事）「消費と環境学習：しろきた市民  
生協のとりくみ」

- 第10回（6/15） 鈴木善次（大阪教育大）子どもたちに人間の可能性と限界を悟らせ  
る：文明論の視点からの環境教育」

- 第11回（7/13） 谷口文章（甲南大）「自然概念と環境倫理」・VTR「淡路島モン  
キーセンターからの報告：奇形ザル問題を追って」

- 第12回（9/21） 戸田耿介（兵庫県教育委員会）「自然観察会の運営と課題：兵庫県  
自然教室の実践活動から」

### ニュース・レターの発行（『関西ECOMAIL』）

第1号	1990.	8.	10	発行	第5号	1991.	5.	11	発行
第2号		10.	13	発行	第6号		7.	1	発行
第3号	1991.	1.	25	発行	第7号		9.	1	発行
第4号		3.	15	発行	第8号		10.	1	発行

# ECOLO人

## 「得たものを社会へ還す」こと

入江芳三郎（グローバル環境文化研究所（GEC）理事長）

昨今の日本の政・財界のあまりにも心貧しい状況、一流といわれる大学を出た人たちのお粗末な社会モラル。バブル経済といわれる時代の終焉。ひょっとしたら「本当の時代」——モノに対する正当な価値判断のできる時代が来るかも知れない。

そんな価値観、倫理観が求められつつある今日、環境にやさしい文明、文化の創造を目指して設立した「グローバル環境文化研究所（GEC）」と、日本の木の文化の再生を願って飛騨・高山に創設した「森林たくみ魁（さきがけ）塾」奇しくも公益性を持った二つの事業体の理事長になれたことは私にとってこの上ない喜びです。

企業は事業活動として利益の追求は当然ですが、あくまで人間が生きていく一つの手段であって、真に豊かな生活を指向する目的ではありません。

これからの時代、企業人が必ず考えなければならないキーワードに「企業と社会のかかわり——コーポレート・シチズンシップ（企業市民）」があります。「得たものを社会へ還す」という概念です。だからこそあえて環境文化であり魁（さきがけ）なのです。条件が未整備のままスタートした二つの事業体ですが、今取り組まねばならないテーマなのです。戦後モノが乏しかった時代とあふれる時代を経験した私たちです。この機会でなければ絶対に駄目なのです。

大阪市内の旅館の息子に生まれ、小さい時から「木」に親しんできました。学生時代は自然科学研究会の一員として野山を駆け回りました。英国・湖水地方、ピーターラビットの故郷を家内と二人で旅した時の感動は忘れることがありません。こんな体験が今の私の原点なのかも知れません。

これまでに会った多くの諸先輩の方々にもたくさんのことを学ばさせていただきました。私が最も大切にしている「敬愛」という言葉もその一つです。相手の立場にたって物事を考える。相手の痛みがわかる人間でありたい。「敬愛」とはそういうことなのです。

企業家のはしくれとして、公益性を持った二つの事業体の理事長として社会とどうかかわっていくのか、このことが私のライフワークであり、人生の課題と強く認識しています。ヒューマンエコロジーな人たちと手をたずさえて、一生懸命に生きていこうと思っています。21世紀を生きる人たちへ、青く美しい地球と豊かな地域社会を手わたすために。



入江芳三郎さん

1949年大阪生まれ。本業の会社経営の合間に理事長として東奔西走する、三児のパパ。「せっかちだけどとにかく人がいい」。物腰柔らかな実業家の顔の中に、エネルギッシュに理想を語る少年の顔が覗きます。似顔絵は二女の真代ちゃん（8歳）の作ですが、ちょっと若かったかな？

# ネット・ワーク



## (1) 自然体験ワークショップ——第2回環境教育京都フォーラム

10月5日(土) 13:30 ~ 6日(日) 14:00 (1泊2日) 部分参加可

場所: 京都市宇多野ユースホステル 対象: 高校生以上だれでも 定員: 50名

参加費: 7000円 (すべての経費を含む、もちろん懇親会費も)

内容: 「ネイチャー・ゲーム」(吉岡国久)、「バード・ウォッチング」(中西甚五郎)、「青少年に生きる力を願って」(小野喜一郎)、「自然学校の理念・活動・問題点」(好廣眞一)、「子どもたちとともに地域に目を向けて」(早川幸生)など。

環境教育を考える私たちは、まず、自らの感性に気づき、科学する目を育てることから始めたいと思います。今回は、野外・室内のワークショップを通して、環境教育活動のヒントを探ります。参加者の交流会もまた楽しみです。どうぞ、ご参加下さい。

主催: 環境教育京都フォーラム世話人会 後援: (財)京都ユース・ホステル協会  
申し込み、問い合わせ先: 京都ユース・ホステル協会 担当: 水野、山本  
京都市宇多野ユースホステル内 (☎ 075-462-9185、電話でお申し込み下さい。)

## (2) 里山入門講座 (5回シリーズ)

9月25,26,27日(水・木・金、すべて18:30~21:00)、

28日(土) 19:00 ~ 29日(日) 14:00 (1泊2日)、10月6日(日)の5回

場所: 大阪市立労働会館、大阪市立信太山青少年野外活動センター 定員: 40名

参加費: 一般 6000円(宿泊・交通費別) 講師: 布谷知夫、重松敏則、木下睦男ほか

内容: 「森のしくみ・森のはたらき」、「人と森のかかわり・里山の成り立ち」、「市民参加と里山の管理」、「里山の生き物、樹木の見分け方」、その他、実習など。  
大阪の雑木林、アカマツ林は先祖が柴刈りや薪採りをしながら守ってきた「里山」です。今回は、里山の自然を知り、体験しようという入門講座です。

主催、申し込み、問い合わせ先: (財)大阪自然環境保全協会 (☎ 06-374-3376)

## (3) 市民トーク 都市と公園ネットワーク

——考えてみよう、市民にとっての公園—— 「花博」一年後の検証

10月18日(金) 18:30~21:00 場所: 中之島公会堂 第一会議室(2階)

市内やウォーターフロント、里山で公園づくりに取り組む大阪の市民運動が専門家を交えて交流し、提言を行います。

問い合わせ先: 都市と公園ネットワーク

大阪市学童保育連絡協議会内 ☎ 06-763-4381 (楠野)





④ まちのおもしろ探検隊 ——都市の水資源探検隊——

10月26日(土) 14:00 ~ 27日(日) 14:00 (1泊2日) 会場:大阪北YMCA

対象:小学生、中学生、成人 定員:50名(小学生1・2年生は保護者同伴)

参加費:2000円(食費、交通費、材料費など) 講師:高田研 ほか

私たちが生きていく上で欠かせない水について調べます。豊中市内の上水道システムや湧き水・地下水をウォッチングします。また、水の分析やきき水大会を通して、水をどうすればうまい飲み水になるのかについても、学習します。

主催、申し込み、問い合わせ先:豊中市立中央公民館 (☎ 06-866-0555)

後援:大阪北YMCA

⑤ 森と自然を守る全国集会 ——ブナ・原生林・里山を21世紀の子供たちへ——

11月9日(土) 10:00 ~ 10日(日) 17:00 11日(月)は現地見学

会場:奈良教育大学 参加費:3000円(一日のみの参加は1000円) 規模:600名

内容:講演 一日目 「地球規模の環境問題と森林破壊」(谷山鉄郎 三重大学)

二日目 「都市の中に自然を」(上田篤 京都精華大学)

現地報告 (遠藤公男、黒田洋一、寺川庄蔵、塩谷章次、阿部悦子、西村秋二)

分科会 (原生林・ブナ林、リゾート・ゴルフ場開発と住民運動、都市近郊の自然を守る、地球規模の森林破壊、森と自然を守るために、山岳自然保護とアウトドアスポーツ、野生の動植物、子供と自然、現代生活・産業と自然 9部会)

ジョイントトーク 「日本の森と川を考える」(天野礼子)

他に、文化行事(映画、音楽など)、展示、全国交流会など

現地見学:①大台ヶ原 ②大峰・八経ヶ岳 ③春日原生林 (参加費別)

主催、申し込み、問い合わせ先:「森と自然を守る全国集会」実行委員会事務局

藤田章貴方 (☎ 0742-34-0452 FAX 0742-34-0043)

学会誌「環境教育」への積極的なご投稿を会員の皆様にお願ひ致します。

日本環境教育学会 学会誌編集委員



★ 関西ECOMAILへの投稿を募集しています。

★ また、ネットワーク欄への情報提供もよろしくお願ひ致します。

関西ECOMAIL

第8号 1991年10月1日発行

通信費 一年 1000円

編集 日本環境教育学会関西支部世話人会

発行 日本環境教育学会関西支部

事務局 大阪教育大学 環境科学教育研究室 (鈴木善次研究室)

〒543 大阪市天王寺区南河堀町 4-88 (☎ 06-771-8131 [内線 417])

次回 第9号 1991年11月20日発行予定 原稿締め切り 11月10日